

2018年度（第16回）山形県山岳連盟指導員研修会実施報告書

報 告 山形県山岳連盟 指導委員長 菅野享一

期 日 平成30年5月19日（土）～20日（日）

場 所 蔵王坊平高原ペンション「トゥコットン」

参加者 13名（内共済保険加入8名）

概 要

山形県山岳連盟指導員会が主管する指導員研修会が5月19から20日の二日間蔵王坊平高原ペンショントゥコットンを会場に開催されました、始めに伊藤県岳連会長より挨拶をいただいた後、菅野指導委員長より日山協山岳共済会が行っている山岳遭難・捜索保険についての説明、続いて吉田副指導委員長より研修日程の説明があり、2日目は宮城県側で自転車でのロードレースが予定されており通行止めとなるので、研修場所や内容の変更についての連絡がありました。

13:45から「蔵王出の暮らし」とのテーマで、ペンションオーナーの杉浦氏より講話をいただいた。杉浦氏は上山出身で山形市内へ自宅があるが殆どペンションで暮らしており、山形商業を卒業後企業に勤め各地を転勤してきたが、「山が見えないと落ち着かない」「山を身近に感じたい」との思いが強くなり39歳で会社を辞めペンション経営を始めたが、国立公園内で経営に至るまでの苦労や、最近増えてきた外国からの客に言葉が通じずガイドするにも思うように説明が伝わらないこと、年配の客層が多く土日よりも平日が混んできていることなど時代と共に変貌してきた状況について話され、ペンションの名前の由来については、最初は「シンプル」としたが「簡単」と解釈されやすいとのことから類似した言語と思い、より自然という意味合いを込め「トゥ コットン」としたことなどのお聞きし、自然と共存した生き方を考える機会を得ることができました。



オーナーの杉浦孝一氏

14:30からは、吉田副委員長より「一般登山者の引率や指導法、パーティーのリーダーとしての心得、樹木学習」のテーマで研修が行われ、山岳ガイドに関してはさまざまな形態があるが、目的は「顧客の要求に対して安全と信頼のもとに登山の喜びを与える」、「正しい登山技術の普及・指導」、「自然保護の啓発と環境の保全、管理」、「遭難の防止、救助などの登山界への寄与」等があり案内する上で引率する者は登山能力があればいいというわけではなく、同行者の登山能力を把握し注意力と信頼関係を築くことも必要であることを確認した。その後中丸山登山道の仙人沢へ移動し過去の転落事故現場での検証を行い危険予知と状況判断の見極めやフィックスロープによる危険回避のための技術や支点の取り方等について確認しました。



事故現場での検証



フィックスロープ技術研修

18:00 から、「上山市クワオルト事業」について案内人をしてる細川秀彦氏より事業概要の説明とこれまでの成果等について特別講話をいただいた。

クアオルトとはドイツ語で「療養地・健康保養地」を意味しており、上山市は高齢

者が多く医療費が高いということで10年前から気候性地形療法の手法によりウォーキングによる市民の健康増進事業として取り組んできている、内容は幾つかの里山コースを設定し目標心拍数「160-年齢」をキープしながら、体温を上げないように注意して個人の状態に合わせ無理のない歩行をすることで生活習慣病の予防や健康な体がつくれるということから、毎日案内人が付添い心拍数の計測や個々に合ったウォーキングメニューのアドバイス、コース案内、イベント企画等を開催しており、今では市外からの参加者も多く、個人やグループでウォーキングを楽しむ方も増えてきており街の活性化が期待されるとのことでした。

気候療法：自然の中で受ける大気の様々な作用の変化により患者を治療すること。

地形療法：勾配のある土地を、治療のため医師の処方により歩くこと。



細川秀彦氏



聴講状況

18:30 からの夕食を美味しく頂いた後もストーブを囲み情報交換が行われ一日目を終了した。



情報交換会

二日目 5月20日 昨日夕方からの激しい雨が上がりガスがかかる中次第に晴れ間が覗き清々しい高原の朝を迎え、朝食後 8:30 技術研修の為刈田峠宮城側大黒天駐車場へ移動となったが、直ぐにエコーライン入口ゲートが閉鎖しており管理先へ連絡をとったところ昨夜の荒天で積雪があり終日通行止めとのことで、仕方なく雪上歩行、滑落停止等は断念し、ゲレンデ脇の駐車場においてショートロープによる確保技術や懸垂下降等の基本的な実技研修を行いました。



残念ながら通行止め

研修終了後に意見交換を行い、実践的な技術が学べた、登攀用具等を使用する機会が少なく反復訓練が必要、セルフビレイや危険個所での安全確保の必要性を確認できた、ガイドする場合の注意点が再認識できた等々参加者からは個々に成果があったとの意見が多く聞かれました。

12:00 澄み渡った空のもと雄大な眺望を後に予定通り研修日程を終了しました。

今回の研修会では日程が例年開催日程とズレたことや農繁期と重なったことなどから参加者が少なかったものの、引率や指導に於けるリスクを考える機会を得たことや、歩くことで健康増進を図るいわばセルフレスキューの原点を目指したクワオルト活動や自然と共存した生き方を考える機会となりました。



ペンション「トゥコットン」前にて

研修風景